

今週の為替相場見通し(2022年8月8日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		130.40 ~ 135.52	135.02	132.00 ~ 138.00
ユーロ	(ドル)		1.0123 ~ 1.0294	1.0196	1.0100 ~ 1.0250
(1ユーロ=)	(円)		133.43 ~ 137.72	137.45	134.00 ~ 141.00
英ポンド	(ドル)		1.2004 ~ 1.2291	1.2073	1.1900 ~ 1.2150
(1英ポンド=)	(円)	*	159.45 ~ 163.92	163.01	161.50 ~ 165.00
豪ドル	(ドル)		0.6870 ~ 0.7048	0.6911	0.6680 ~ 0.6830
(1豪ドル=)	(円)	*	90.52 ~ 93.81	93.35	92.50 ~ 94.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 西 拓也

(1)今週の予想レンジ: 132.00 ~ 138.00 円

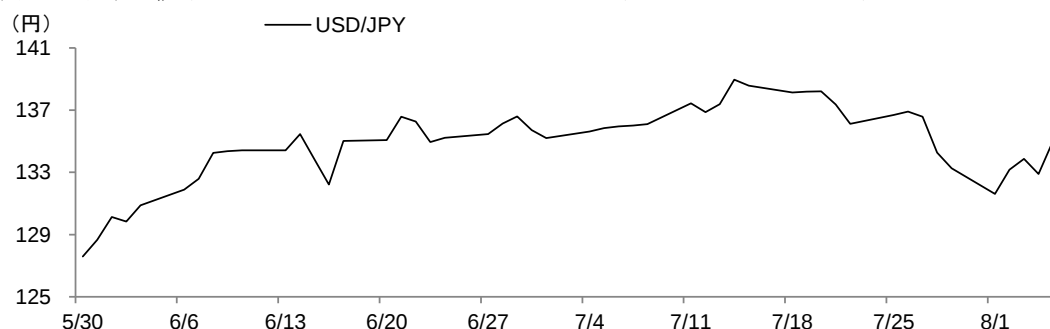
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は約2か月ぶりの安値圏まで急落も、その後は持ち直す展開。週初1日、133.40円付近でオープンしたドル/円は米経済指標だけでなく、中国や台湾など各国の経済指標が冴えない結果となったことで世界的な景気減速懸念が強まり131円台半ばまで続落、軟調に推移した。2日、ドル/円はペロシ米下院議長の台湾訪問報道を受けた米中対立激化懸念を背景にリスク回避の円買いが加速し、一時週安値の130.40円まで急落も、海外時間では米当局者による相次ぐタカ派的な発言に133円台前半まで回復した。3日、ドル/円は前日のリスク回避の円買いの流れが継続し、一時132円台前半まで値を下げるも、その後は米7月ISM非製造業景況指数の良好な結果や複数のFRB高官による米利上げペースの鈍化と米経済後退懸念が否定された発言に一時134.55円まで上昇した。4日、ドル/円は米長期金利上昇や株式市場の堅調推移に上げ幅を拡大するも、米中対立激化懸念の高まりや米新規失業保険申請件数の冴えない結果に132円台後半まで急落した。5日、米7月雇用統計の発表前は133円付近で方向感なく様子見の展開。注目の米7月雇用統計は予想を大幅に上回る良好な結果となったことでドル/円は急伸し、一時週高値の135.52円まで上昇。結局、ドル/円は135.02円で越週した。

今週のドル/円相場は底堅い推移を予想。7/14に139.38円まで上昇して以降、調整局面が続いた。米4~6月期GDPがマイナス成長となりリセッション懸念が高まったこと、ペロシ米下院議長の訪台により米中関係悪化が懸念されたことでドル/円も下落が続き、8/2には130.40円を付けた。その後発表された米経済指標が概ね良好でリセッション懸念が後退し、且つ、FED高官からもタカ派的な発言が相次いでいることからドル/円は135円台を回復し、ある程度持ち直してきた。かかる状況下、先月約40年ぶりの高い伸びを記録した米6月CPIが、10日(水)発表の米7月CPIでもピークアウトしておらず高水準であれば、雇用統計後に織り込みが進んだ次回FOMCでの+75bp利上げ観測が更に高まり、米金利上昇及びドル買い材料となる。FED高官による相次ぐタカ派敵発言も踏まえればFEDの金融引き締め姿勢は不変とみられ、引き続きドル買いをサポートするだろう。一方、米中関係悪化は世界景気の減速に繋がりがかねず、リスク回避の円買い材料となるため、ヘッドラインには警戒が必要だ。今週の主な経済指標としては、10日(水)に米7月CPI、11日(木)に米7月PPI、米新規失業保険申請件数、12日(金)に米8月ミシガン大学消費者マインドの発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/1~8/5)の値動き: 安値 130.40 円 高値 135.52 円 終値 135.02 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 小林 元子

(1) 今週の予想レンジ: 1.0100 ~ 1.0250 134.00 ~ 141.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は振れ幅を伴いつつも、方向感なく推移した。週初1日、1.0210付近でオープンしたユーロ/ドルはシドニー時間に1.02台を割り込むも、ユーロ圏7月製造業PMIの良好な結果や米金利低下に伴うドル売りに1.02台後半まで上昇した。2日、ユーロ/ドルは東京時間朝方に一時週高値の1.0294まで上値を伸ばすも、ペロシ米下院議長の台湾訪問に端を発した米中関係悪化懸念からリスク回避のドル買いが強まり、また、海外時間では相次ぐ米当局者によるタカ派的な発言や米金利上昇に伴うドル買いに続落、1.01台半ばまで値を崩した。3日、ユーロ/ドルは独6月貿易収支の市場予想を上回る結果に一旦は1.02台前半まで上昇も、その後は複数の米経済指標の良好な結果や米長期金上昇に一時週安値の1.0123まで急落。4日、ユーロ/ドルは1.01台半ば付近での揉み合いだったが、海外時間では米経済指標の冴えない結果や翌日に雇用統計を控えたポジション調整の動きからドル売り優勢となり1.02台半ばまで急伸した。週末5日は、米7月雇用統計発表を控えて、結果を見極めたいとの見方から、ユーロ/ドルは1.0230付近で推移。NY時間では強い米7月雇用統計の結果を受けたドル買いに1.0142まで反落するが、強い雇用統計結果を受け米リセッション懸念が後退したことからユーロ/円が137.72円までサポートされる展開に、ユーロ/ドルも1.0186までサポートされ、1.0196で越週した。

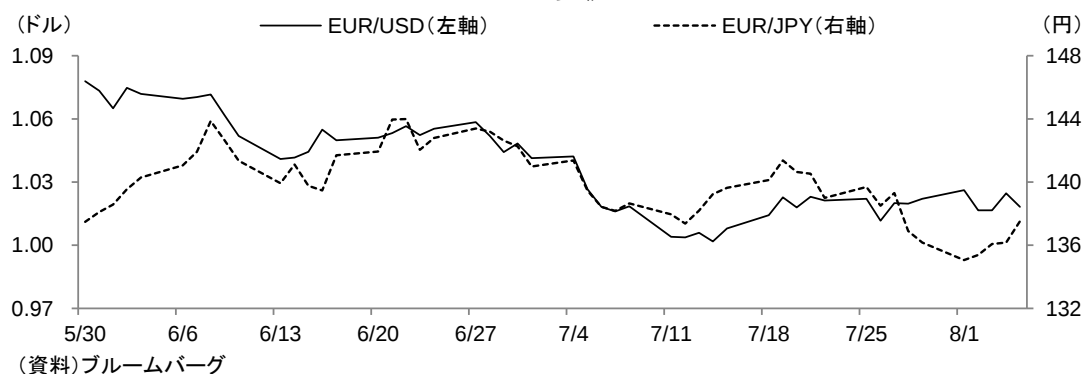
今週のユーロ相場は上値の重い展開を予想する。先週のユーロ/ドルは米7月ISM製造業景況指数の弱い結果を受けて、米利上げペースの原則への懸念で、ユーロが一時買い戻される展開となるも、週末に発表された米7月雇用統計の強い結果を受けてユーロが売り戻される展開となった。直近発表されたユーロ圏の経済指標はまちまちの結果となっているものの、個人消費の弱さが嫌気されており、積極的なユーロ買いの展開になりづらい。また、12日(金)に発表予定のユーロ圏6月鉱工業生産が市場予想を下回った場合においては一段とユーロ売りの展開となる可能性あり、留意したい。米雇用統計の予想対比強い結果が確認され、米景気後退懸念が後退している状況下においては、新たなユーロ買い材料が見受けられない場合においては積極的なユーロ買いが難しく、今週はユーロ/ドル相場は引き続き上値の重い展開となろう。今週の重要指標の発表は10日(水)独7月CPI、12日(金)ユーロ圏6月鉱工業生産の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/1~8/5)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0123 高値 1.0294 終値 1.0196

(対円) 安値 133.43 高値 137.72 終値 137.45



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1)今週の予想レンジ: 1.1900 ~ 1.2150 161.50 ~ 165.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、ほぼ一方的な軟調推移に終始し、対ドル、対ユーロでは明確に水準を切り下げた。ただし、並行した円の乱高下を受け、対円では下押しの先行後、反発、週を振り返って僅かに水準を切り上げた。週明け1日こそ、ポンドは堅調気味の滑り出しを見せ、対ドルでは6月27日来的高値となる1.2291まで上昇、対ユーロでも水準を切り上げたものの、並行して対円ではむしろ軟調気味の横ばい。結局、この1.2291を(対ドルでの)週の高値に、その後、ポンドは対ドルで軟調気味、対ポンドで堅調気味の横ばい、対円では並行した円高、円安を受けて乱高下を見せた。ポンド市場の注目は4日の英中銀金融政策委員会に集まっており、この間の交錯した値動きは、注目要因を前にした神経質な上下動の範囲を出なかった。同委員会は8対1の多数決で基準金利の+50bp引き上げ(利上げ後1.75%)を決定(1票は+25bp)。この決定は市場の過半の予想するところであったものの、+25bp幅の利上げを予想した向きも相応にあり、同銀物価予想の大幅引き上げ(CPIのピークは年内に前年比+13%超など)を受けた「予想以上に引き締め気味」の決定と受け止めることもできただろう。それでもポンドが急落したのは、「15か月に亘る景気後退」という極めて弱気な英経済成長予想に対する反応だったのではない。週引けを前に通貨市場の注目は速やかに5日の米7月雇用統計に移ったが、発表された統計は予想に倍する雇用者増、予想外の失業率低下、予想を上回る平均時給の強い伸びと三拍子揃った「強い」内容。ドルは全面高に振れ、ポンドも対ドルでは週の安値となる1.2004まで下落、そのまま安値圏で週の取引を終えた。

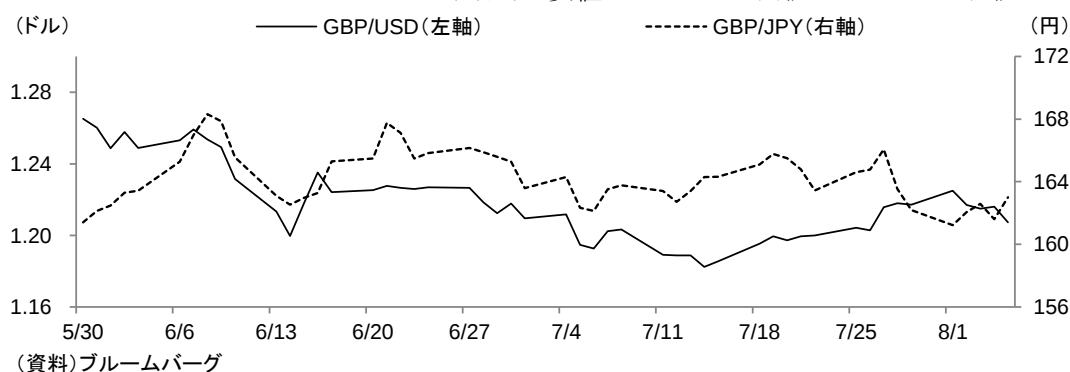
今週の英ポンド相場は、対ドルで軟調、対円、対ユーロでは方向感を欠いた上下動と、それぞれ足許基調の継続を予想。先週の引けに掛けて進んだポンド/ドルの下押しは、上述の通り、米7月雇用統計発表後のドル全面高の一環。週を通して観察されたポンド/円の乱高下も、(7月27日の米連銀利上げを経た)米長期金利低下→反発=日米金利差縮小→拡大に殊更反応した円全面高→全面反落を反映した値動きで、週を通して唯一見られたポンド固有の値動きは、英中銀利上げ後のポンド全面安ぐらいだった。英中銀の利上げは、当地メディアでは「27年ぶりの大幅利上げ」が盛んに強調された。+50bpは確かに1995年来の大幅利上げだし(-50bp以上の大幅利下げはその後頻繁に実施されてきた)、往時(6.125→6.175%)と今般(1.25→1.75%)とでは、同じ+50bpでも「利上げ前後の金利の比率」という目線でそのインパクトは明確に異なる。それでも、通貨市場で最も重要なのは、他経済/他通貨との相対性のはずで、米連銀や欧州中銀が次々と+75bpや+50bpの利上げに踏み切る環境下で、英中銀の+50bpがポンド高につながる決定的な要因と読まれる可能性は考え難いだろう。対ドルでの軟調を中心に見込むのも、景況感という目線でも、金融引き締めという尺度でも、引き続き、ドルの方が明確に優位にあると感じるからだ。その目線で、対ユーロでの膠着を見込むのは筋の通った見通しのように思われるが、対円での交錯を見込むのは、対ドルで140円目前まで進んだ円安が僅か3週間弱で130円台まで反発した値動きに円安「一巡」の可能性を警戒するから。景況感という目線でも、金利差という目線でも、まだまだ円が主要通貨の中で「最弱」との認識に変化はないものの、材料の織り込みで大きく先走る傾向の強い通貨市場が、既に、円安材料を十分以上に織り込んでしまったのであれば、分かり易い円安が今後続くと思込むのは、或いは単純に過ぎるのかもしれない。

(3)先週末までの相場の推移

先週(8/1~8/5)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2004 高値 1.2291 終値 1.2073

(対円) 安値 159.45 高値 163.92 終値 163.01



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.6680 ~ 0.6830 92.50 ~ 94.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.70台前半から0.69台前半まで下落。1日、シドニー休場の中、アジア時間内は小動き。NY時間に発表された米7月ISM製造業景況指数が拡大ペース鈍化となったことで、ドル売りが強まり、豪ドルは0.70台半ばまで上昇。2日、RBA理事会では市場予想通りの+50bp利上げとなるも、「金利の正常化に向けあらかじめ決めた軌道上にはない」との文言が声明文に加わったことがハト派的ととらえられ、豪ドルは下落。ペロシ米下院議長の台湾訪問による地政学リスクの高まりも意識され、欧米時間には0.69台前半まで下落した。3日、朝方発表されたニュージーランド4～6月期雇用統計が予想以上に悪化したことでNZドルが売りで反応すると、豪ドルも連れ安となり0.68台後半まで下落。NY時間に入り発表された米7月ISM非製造業景況指数が予想以上に強い内容となったことで米ドル買いのフローが膨らむと、豪ドルは再び売られたが、堅調な株価を背景にすぐに上昇に転じ、0.69台半ばまで買い戻された。4日、前月からの低下が予想されていた豪6月貿易統計では、好調な輸出を背景に貿易黒字額の記録を更新。強い貿易統計の発表を受けて豪ドルはじりじりと上昇。イングランド銀行の金融政策委員会では27年ぶりに+50bp利上げを決定するも、英経済の長期リセッション入りの可能性に言及したこともあり、英ポンドが下落すると同時に英金利が低下。つられて米金利が低下、米ドル売りとなり、豪ドルは一時0.70ちょうど手前まで上昇した。5日、米7月雇用統計が予想を上回る強い結果となり、米金利が急上昇。米ドルが大きく買いで反応する中、豪ドルは一時0.68台後半まで下落した後、株価が下げ幅を縮小する動きを背景に、買い戻されて0.69台前半で引けて越週。

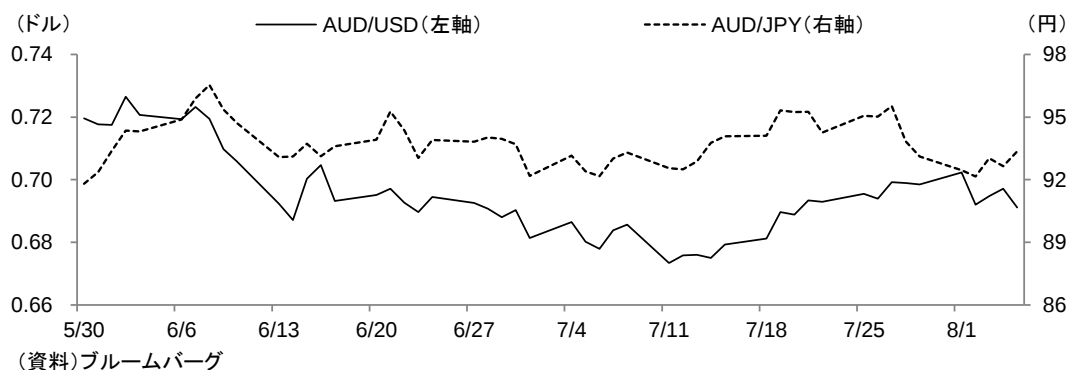
今週の豪ドルは米指標を見ながらの展開となろう。先週金曜日に発表された米7月雇用統計はどの指標を見ても文句のつけようがない強い結果となった。FRBによる積極的な利上げにもかかわらず労働市場に陰りが見えないことで、今後さらにFEDがタカ派的姿勢を強めるとの思惑から、金利先物は今後の利上げを一段と織り込み、豪ドルの頭を押さえた。今週は豪州国内で大きく注目される指標の発表が無い中、10日(水)の米7月CPI、12日(金)の米8月ミシガン大学消費者マインドの結果を受けた市場の反応に左右される展開が続くと予想される。物価上昇率や期待インフレ率のピークアウトが確認できなかった場合、米短期金利上昇、米ドル高の反応で、豪ドルは大きく下落する可能性もある為、指標発表前後の荒い値動きには十分注意したい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(8/1～8/5)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6870 高値 0.7048 終値 0.6911

(対円) 安値 90.52 高値 93.81 終値 93.35



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。